

**2018年3月改訂(第10版)
*2012年5月改訂

日本標準商品分類番号	871319
承認番号	21900AMX01690
薬価収載	2007年12月
販売開始	1958年12月
再評価結果	1984年6月

貯法等:【取扱い上の注意】の項参照
*使用期限:製造後3年(溶解後の使用期限は【取扱い上の注意】の項参照)

老人性白内障治療剤
カタリン[®]点眼用0.005%
CATALIN[®] FOR OPHTHALMIC 0.005%
ピレノキシン点眼剤

【組成・性状】

錠剤 (1錠)	成分・含量 (1錠中)	ピレノキシン0.75mg
	添加物	タウリン、ホウ酸、ホウ砂
	色	だいたい黄色
溶解液 (15mL)	添加物	ホウ酸、パラオキシ安息香酸プロピル、パラオキシ安息香酸メチル、塩化カリウム、水酸化ナトリウム
	色	無色澄明
添付の 溶解液に 溶解後	成分・含量 (1mL中)	ピレノキシン0.05mg
	剤形	水性点眼剤
	色	黄色澄明
	pH	5.5~6.5
その他		無菌製剤

【効能・効果】

初期老人性白内障

【用法・用量】

錠剤を添付溶解液に用時溶解し、1回1~2滴を1日3~5回点眼する。

※錠剤の溶解方法については裏面をご参照ください。

【使用上の注意】

1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	眼瞼炎、接触皮膚炎
眼 ^{注)}	びまん性表層角膜炎、結膜充血、結膜炎、刺激感、痒痒感、霧視、眼脂、流涙、眼痛、眼の異常感、眼の異物感

注)発現した場合には、投与を中止すること。

2. 適用上の注意

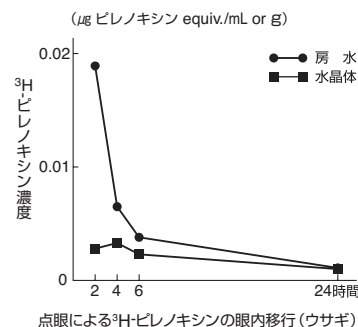
- (1)投与経路: 点眼用のみ使用すること。
- (2)投与時: 点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。

【薬物動態】

(参考)

眼内移行(ウサギ)

ウサギに³Hでラベルしたカタリン点眼用0.005%を1回0.05mL、5分間隔で7回点眼した試験では、ピレノキシンの濃度は房水において2時間後に0.0189 μ gピレノキシンequiv./mL、水晶体において4時間後に最高濃度の0.003 μ gピレノキシンequiv./gを示す。



【薬効薬理】^{1)~3)}

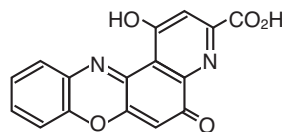
キノイド学説によると、白内障の成因は水晶体の水溶性蛋白が、有核アミノ酸(トリプトファン、チロシン等)の代謝異常で生じるキノイド物質によって変性し不溶性化するためといわれているが、ピレノキシンはキノイド物質のこの作用を競合的に阻害して、水晶体の透明性を維持させることにより白内障の進行を抑制する(モルモット、*in vitro*)。

【有効成分に関する理化学的見解】**

一般名: ピレノキシン(Pirenoxine) [JAN]

化学名: 1-Hydroxy-5-oxo-5H-pyrido[3, 2- α] phenoxazine-3-carboxylic acid

構造式:



分子式: C₁₆H₈N₂O₅

分子量: 308.25

**性状: ピレノキシンは、黄褐色の粉末で、においはなく、味は僅かに苦い。

ジメチルスルホキシドに極めて溶けにくく、水、アセトニトリル、エタノール(95)、テトラヒドロフラン又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

融点: 約250 $^{\circ}$ C (分解)

【取扱い上の注意】

注意: 本剤は、金属イオンの混入によって色調が変化するので注意すること。

貯法: 1. 室温保存

2. 溶解後は、冷所に遮光して保存し、3週間以内に使用すること。

【包装】

(点眼液用錠剤1錠・溶解液15mL)×10

(点眼液用錠剤1錠・溶解液15mL)×50

【主要文献】

- 1) 荻野周三：日本眼科学会雑誌, 59, 666, 1955.
- 2) 荻野周三：日本医事新報, 第1732号, 13, 1957.
- 3) 荻野周三：臨床眼科, 11, 272, 1957.

【文献請求先】**

〈文献請求先・製品情報お問合せ先〉

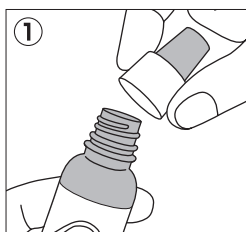
千寿製薬株式会社 カスタマーサポート室

** 〒541-0048 大阪市中央区瓦町三丁目1番9号

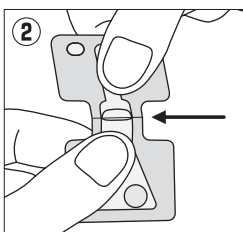
TEL 0120-069-618 FAX 06-6201-0577

受付時間 9:00~17:30 (土、日、祝日を除く)

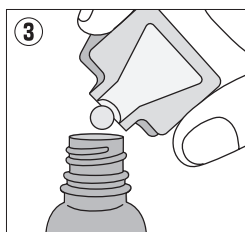
錠剤の溶解方法



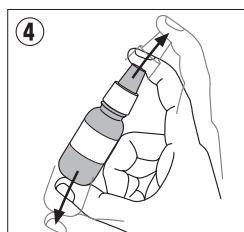
溶解液容器の白色の大キャップをとりはずす。その際、瓶口部に溶解液の膜が張っている場合は、膜が無くなるまで、瓶の胸部を軽く押える。



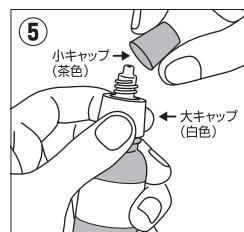
錠剤パックを、矢印付近の切り込み線に指をかけるようにして、図のように折る。



錠剤に手を触れないよう注意し、パックから直接溶解液に入れる。



白色の大キャップをかたくしめ、よく振って錠剤を溶解する。



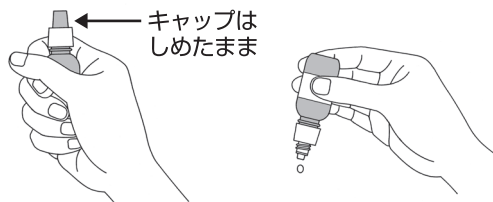
点眼する時は、白色の大キャップはそのままにして茶色の小キャップのみをはずし、容器の先端が目につれないように注意して点眼する。

（錠剤パックの開封口が膜に触れると、錠剤が湿って出にくくなりますので、ご注意ください。）

（誤って白色の大キャップをはずしますと、液がこぼれますので、ご注意ください。）

点眼される際のお願い

冷所に保存していた点眼液を取り出した後すぐに点眼すると（特に残りの薬液が少ない場合）、容器の中の冷たい空気が手で温められて膨張し、薬液が連続して落ちる場合があります。点眼する前にしばらく容器を手で温めてから点眼すると、1滴ずつ点眼できます。



← キャップは
しめたまま

製造販売元 千寿製薬株式会社
** 大阪市中央区瓦町三丁目1番9号

販売 武田薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町四丁目1番1号